(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第6233960号
(P6233960)

(45)発行日　平成29年11月22日(2017.11.22)　(24)登録日　平成29年11月2日(2017.11.2)

(51)Int.Cl.		F I		
A47C 31/02	(2006.01)	A47C	31/02	C
B68G 7/05	(2006.01)	B68G	7/05	A
A47C 7/18	(2006.01)	A47C	7/18	
A47C 7/00	(2006.01)	A47C	7/00	B

請求項の数 4　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願2013-217345(P2013-217345)
(22)出願日　平成25年10月18日(2013.10.18)
(65)公開番号　特開2015-77340(P2015-77340A)
(43)公開日　平成27年4月23日(2015.4.23)
審査請求日　平成28年10月6日(2016.10.6)

(73)特許権者　000000561
株式会社岡村製作所
神奈川県横浜市西区北幸２丁目７番１８号
(74)代理人　100064908
弁理士　志賀　正武
(74)代理人　100094400
弁理士　鈴木　三義
(74)代理人　100149548
弁理士　松沼　泰史
(72)発明者　小田　洋一郎
神奈川県横浜市西区北幸二丁目７番１８号
株式会社岡村製作所内

審査官　大谷　謙仁

最終頁に続く

(54)【発明の名称】椅子

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
骨格部を成す基体であって表面側の内側領域に荷重受け面を有する基板と、
該基板の少なくとも表面側に配置されるクッション材と、
少なくとも前記クッション材の外側面と前記基板の外周縁部にかかる部分を覆い、周縁部が前記基板の外周縁部の裏側に折り返され内周側に引き込まれて支持される張材と、を有する荷重支持体を備えた椅子において、
前記基板の、前記荷重受け面よりも外側方に位置する外周縁部の表面に、面方向と交差する面直方向に突出して前記クッション材を係止する凸部が、前記張材の前記基板の裏面側からの引き込み方向に沿って複数設けられていることを特徴とする椅子。
【請求項２】
前記クッション材は、前記基板よりも大きな外形寸法に形成されるとともに、外周縁部が前記基板の外周縁部の裏側に折り返され、
前記凸部は、前記基板の外周縁部の表面から裏面側に回り込む範囲に、前記張材の前記基板の裏面側からの引き込み方向に沿って複数設けられていることを特徴とする請求項１に記載の椅子。
【請求項３】
前記基板の外周縁部に、裏面側に向かって膨出する外縁膨出部が設けられるとともに、当該外縁膨出部に前記凸部が設けられ、
前記基板の裏面側における前記外縁膨出部よりも内側領域に、前記張材の周縁部を支持

する張材支持部が設けられていることを特徴とする請求項２に記載の椅子。
【請求項４】
前記張材支持部は、前記外縁膨出部よりも前記基板の裏面側に突出していることを特徴とする請求項３に記載の椅子。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、背凭れ部や座体等の荷重支持体の構造を改良した椅子に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
事務用等として用いられる椅子の背凭れ部や座体は、通常、骨格部を成す基板の表面側にウレタン等のクッション材が配置され、クッション材の外側面と基板の外周縁部にかかる部分がシート状の張材によって覆われている。
【０００３】
この種の椅子の張材の取り付けに際しては、張材の全域に安定した張力を付与し易いことから、張材の周縁部を基板の裏面側に折り返して内側に引き込み、その周縁部の端末を基板の裏面に係止固定する手法が多く用いられている（例えば、特許文献１，２参照）。
このような手法を採用した椅子は、張材自体の張力を生かし、張材の取り付けのための複雑な支持構造を基板に形成する必要がない点で優れている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特許第３７２８５７６号公報
【特許文献２】特許第４９６４５０１号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
ところで、上記従来の椅子においては、張材の周縁部が基板の外周縁部で裏側に折り返され、その周縁部の端末が内周側に強く引き込まれることにより、張材の前面側での荷重を支えるべく張力が発生する。このとき、張材は基材の外周端部を巻き込んだ状態で周縁部の端末を内周側に引き込まれるため、張材の前面側に作用する張力の支持反力は基板上の張材の巻き込み部分で最も大きくなり、クッション材はこの部分で最も大きく押し潰される。このため、基板の外周端部付近の張材の巻き込み部分でクッション材が基板に対して僅かに滑ると、その僅かな滑りが契機となり、クッション材の巻き込み部分付近での大きな弾性反力が張材を位置ずれさせる可能性が高まる。
また、上記従来の椅子の場合、張材の裏面に配置されるクッション材を基材に対して正確に位置決めする手段を持たないため、クッション材上のどの部分がどれだけ押し潰されて、支持反力がどの部分でどれだけ高まるかを正確に制御することはできない。このため、椅子の個体毎に張材の位置ずれの可能性が異なることになり、均一品質を提供するためには煩雑な品質管理を強いられることになる。
【０００６】
また、近年、椅子の背凭れ部や座体のデザインとして、外周縁部が裏面側に向かって連続的に湾曲するものが採用されることが多い。この種のデザインは、椅子の縁部において角張った印象を無くすことを意図しているため、基板の外周縁部が裏面側に向かって湾曲面となるように造形されるとともに、裁断された張材の周縁部が縫製や接着の入ることのない連続的な面であることが必須となる。このため、特に、この種のデザインを採用する場合には、張材の裏面側のクッション材が基板の外周端部において張材の引き込み方向に沿ってより滑り易くなり、張材の上記の位置ずれの可能性がより高まる。
【０００７】

そこでこの発明は、張材の周縁部を基体の裏側に折り返し、その周縁部を基体の内周側に引き込んで基体に係止する構造を採用しつつも、クッション材の滑りを契機とした張材の位置ずれ抑制することのできる椅子を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

この発明に係る椅子では、骨格部を成す基体であって表面側の内側領域に荷重受け面を有する基板と、該基板の少なくとも表面側に配置されるクッション材と、少なくとも前記クッション材の外側面と前記基板の外周縁部にかかる部分を覆い、周縁部が前記基板の外周縁部の裏側に折り返され内周側に引き込まれて支持される張材と、を有する荷重支持体を備えた椅子において、前記基板の、前記荷重受け面よりも外側方に位置する外周縁部の表面に、面方向と交差する面直方向に突出して前記クッション材を係止する凸部が、前記張材の前記基板の裏面側からの引き込み方向に沿って複数設けられていることを特徴とするものである。

この発明の場合、クッション材が基板の外周縁部の表面に設けられた複数の凸部によって係止され、基板の外周縁部でのクッション材の引き込み方向に沿った滑りが規制される。これにより、基板の外周縁部に対するクッション材の滑りが契機となり、張材がクッション材の弾性反力を受けて基板に対して位置ずれするのを抑制される。

【０００９】

また、この場合、クッション材が、張材の引き込み方向に沿う複数個所で基板上の凸部によって係止されるため、基板の裏面側から引き込み力を受ける張材の位置ずれをより有利に抑制することが可能になる。

【００１０】

前記クッション材は、前記基板よりも大きな外形寸法に形成されるとともに、外周縁部が前記基板の外周縁部の裏側に折り返され、前記凸部は、前記基板の外周縁部の表面から裏面側に回り込む範囲に、前記張材の前記基板の裏面側からの引き込み方向に沿って複数設けられるようにしても良い。

これにより、クッション材が基板の外周縁部を表面側から裏面側にかかる範囲を包み込み、その範囲で複数の凸部によってクッション材の引き込み方向に沿った方向の位置ずれを規制される。また、基板の外周縁部の表面から裏面側にかかる範囲でクッション材が張材に内側から支持反力を付与し、張材の位置ずれをより強力に規制するようになる。

【００１１】

さらに、前記基板の外周縁部に、裏面側に向かって膨出する外縁膨出部が設けられるとともに、当該外縁膨出部に前記凸部が設けられ、前記基板の裏面側における前記外縁膨出部よりも内側領域に、前記張材の周縁部を支持する張材支持部が設けられるようにしても良い。

この場合、クッション材が基板の外周縁部を表面側から裏面側の外縁膨出部にかかる範囲を包み込み、外縁膨出部に設けられた凸部によってクッション材の引き込み方向に沿った方向の位置ずれを規制される。また、基板の裏面側に折り返された張材の周縁部は、外縁膨出部の内側の張材支持部によって内側に引き込まれるため、基板の外周縁部を包み込むクッション材部分が基板の外側端面に強く押し付けられ、クッション材や張材の引き込み方向に沿う方向の位置ずれがより確実に防止される。

【００１２】

また、前記張材支持部は、前記外縁膨出部よりも前記基板の裏面側に突出していることが望ましい。

この場合、張材の周縁部を基板の裏側で内側に引き込む張材支持部が、基板の外縁膨出部よりも裏面側に突出しているため、張材の周縁部が外縁膨出部の裏側に押し込まれなくなり、クッション材も外縁膨出部で強く折り込まることがなくなる。このため、クッション材が外縁膨出部で強く押し潰されて、基板の裏側に折り返された張材に外縁膨出部から離間する方向の大きな反力が作用するのを抑制され、基板の外周縁部の表面側に対して張材が強く押し付けられるようになる。

【発明の効果】
【００１３】
この発明によれば、基板の外周縁部でのクッション材の引き込み方向に沿った滑りが、基板の外周縁部の表面に面直方向に突出して設けられた複数の凸部によって規制されるため、張材の周縁部を基板の裏側に折り返し、その周縁部を基板の内周側に引き込んで基板に係止する構造を採用しつつも、クッション材の滑りを契機とした張材の位置ずれを未然に防止することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１４】
【図１】この発明の一実施形態の椅子の側面図である。
【図２】この発明の一実施形態の椅子の背面図である。
【図３】この発明の一実施形態の椅子の背板の背面図である。
【図４】この発明の一実施形態の椅子の背凭れ本体のカバー部材を取り去った背面図である。
【図５】この発明の一実施形態の椅子の背凭れ本体の図４のＶ－Ｖ断面に対応する断面図である。
【図６】この発明の一実施形態の椅子の背凭れ本体の図５のＶＩ部の拡大図である。
【図７】この発明の一実施形態の椅子の背板の外周縁部の部分断面斜視図である。
【図８】この発明の他の実施形態の椅子の図５のＶＩ部に対応する断面図である。
【図９】この発明のさらに別の実施形態の椅子の背板の外周縁部の部分断面斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１５】
以下、この発明の一実施形態を図面に基づいて説明する。
なお、以下の説明においては、椅子に正規姿勢で着座した人の正面が向く図中矢印ＦＲの指す向きを「前」と呼び、それと逆側の向きを「後」と呼ぶものとする。また、「上」，「下」と「左」，「右」については、椅子に正規姿勢で着座した人の上方の図中矢印ＵＰの指す向きを「上」、それと逆側の向きを「下」と呼び、椅子に正規姿勢で着座した人の左側の図中矢印ＬＨの指す向きを「左」、それと逆側の向きを「右」と呼ぶものとする。
【００１６】
図１，図２は、この実施形態の椅子１の全体構成を示す側面図と背面図である。
これらの図に示すように、この実施形態の椅子１は、フロアＦ上に載置される脚部２と、脚部２の上端に設置されるボックス状の支基３と、着座者が着座する座体４と、支基３の上面に取り付けられ座体４を支持する座受部材５と、支基３から後部上方側に延出して座体４に着座した着座者の背中を支持する背凭れ部６と、を備えている。
脚部２は、キャスタ７ａ付きの多岐脚７と、多岐脚７の中央部より起立し昇降機構であるガススプリングを内蔵する脚柱８と、を備え、脚柱８の上端部に支基３が水平方向に回転可能に取り付けられている。支基３には、脚柱８の昇降調整機構と背凭れ部６の傾動調整機構が内蔵されている。背凭れ部６は、側面視略Ｌ字状の背凭れ支持フレーム９と、背凭れ支持フレーム９の後上部に取り付けられ座体４に着座した着座者の背部を直接支持する背凭れ本体１０と、を備え、背凭れ支持フレーム９の前部下端が支基３内の傾動調整機構に連結されている。
【００１７】
背凭れ部６の背凭れ本体１０は、骨格部を成す背板１１（基板，基体）と、背板１１の前面から裏面側（後面側）の外周縁部にかかる範囲に配置されるウレタン等から成るクッション材１２（図５参照）と、クッション材１２の外側面と背板１１の外周縁部と裏面（後面）の一部にかかる部分を被覆するシート状の張材１３と、背板１１の裏面側（後面側）を覆うカバー部材１４と、を備えている。この実施形態の場合、クッション材１２は、張材１３の裏面に熱溶着によって一体に接合されている。

また、この実施形態においては、背凭れ部６の背凭れ本体１０が荷重支持体を構成している。

【００１８】

図３は、背板１１を裏面側から見た図であり、図４は、カバー部材１４を取り去った背凭れ本体１０を裏面側から見た図、図５は、図４のＶ－Ｖ断面に対応する断面図である。

背板１１は、弾性を有する合成樹脂によって形成されている。背板１１は、正面視では四隅が丸みを帯びた縦長の略長方形状に形成され、その前面側で着座者の腰部から背部に亘る部位を支持し得るようになっている。背板１１は、高さ方向の下から３分の１程度の高さ位置で着座者の腰部付近を支持し、それよりも上方側の領域で着座者の背部付近を支持する。なお、以下では、背板１１のうちの着座者の腰部付近を支持する領域を「腰部支持領域１１ａ」と呼び、それよりも上方側で着座者の背部付近を支持する領域を「背部支持領域１１ｂ」と呼ぶものとする。

【００１９】

背板１１は、側面視で腰部支持領域１１ａが前方側に凸状に湾曲し、その部分が着座する着座者の腰部に最初に接触する膨出領域を構成している。また、背板１１の前面は、上下方向のほぼ全域の水平断面が後方側に凹状に湾曲する形状とされている。この背板１１の前面の凹形状は上下方向で窪み深さが変化しており、腰部支持領域１１ａの上下方向の中間部付近が最も大きく窪んでいる。また、背板１１の外周縁部は裏面側に向かって湾曲し、特に、上方側の縁部１１ｃは端末部が略水平姿勢に近づくように裏面側（後方側）に向かって大きく湾曲している。

なお、図３，図４中の符号９０は、背板１１の腰部支持領域１１ａの上下方向の略中央位置から背部支持領域１１ｂに跨る領域に、背板１１の柔軟な撓み変形を得るために形成されたスリットがある。

【００２０】

さらに、背板１１の裏面側には、背板１１の外周形状に略沿うように係止溝１５が環状に形成されている。この係止溝１５は、背板１１の裏面に突設された内側壁部１５ａと外側壁部１５ｂによって形成されている。係止溝１５は、背板１１の外周端部から中央領域側に設定距離離間した位置に設けられている。係止溝１５には、後に詳述するように背板１１を被覆した張材１３の周縁部１３ａが挿入されて係止される。

【００２１】

また、背板１１の裏面のうちの、背板１１の左右の側辺と、その側辺に対向する外側壁部１５ｂの間の領域には、背板幅方向に延出して背板１１の側辺と外側壁部１５ｂを連結する複数の補強リブ１７が設けられている。なお、背板１１の水平断面は、腰部支持領域１１ａが最も大きく凹状に窪んでいるため、この凹形状の窪み深さに応じて腰部支持領域１１ａに配置される補強リブ１７の前後方向の突出高さが他の補強リブ１７の突出高さよりも高くなっている。

【００２２】

背板１１の裏面側を覆うカバー部材１４は、背板１１の裏面側に凹凸嵌合等の適宜手段によって固定される。この実施形態の場合、座体４の後方側から上方に立ち上がる背凭れ支持フレーム９の延出部９ａは、カバー部材１４の前面側に締結固定されている。支持フレーム９の延出部９ａの前方側は背板１１によって覆われている。この実施形態では、カバー部材１４は、背凭れ支持フレーム９とともに着座者からの入力荷重を支える強度部材として機能するため、剛性の高い合成樹脂によって形成されている。

なお、カバー部材１４は必ずしも強度部材でなくても良く、その場合には、背板１１を直接背凭れ支持フレーム９に連結すれば良い。

【００２３】

ここで、背板１１の前面と外周縁部を覆う張材１３は、その周縁部１３ａが背板１１の外周縁部で裏面側に折り返され、その状態で周縁部１３ａが背板１１の裏面に係止固定されている。

張材１３は、背板１１よりも一回り大きく裁断され、背板１１の裏面側に折り返される

周縁部１３ａの複数箇所には、樹脂製の縁材２０が取り付けられている。縁材２０は、図５に示すように断面略Ｌ字状の板状に形成されている。縁材２０は、係止溝１５内に挿入される挿入片２０ａと、挿入片２０ａの基端から略Ｌ字状に屈曲して延出する外側係止片２０ｂと、を有し、張材１３の周縁部１３ａは、挿入片２０ａと外側係止片２０ｂの連接部の近傍の外側面側に接合されている。この実施形態の場合、張材１３の周縁部１３ａの裏面にはクッション材１２が薄く被着され、その肉薄のクッション材１２部分に縁材２０が接合されている。なお、張材１３と縁材２０の接合態様は、この実施形態の態様に限らず、張材１３の裏面に縁材２０を直接接合するようにしても良い。

【００２４】

縁材２０の挿入片２０ａには、肉厚方向に貫通する嵌合孔２１が形成され、係止溝１５の内側壁部１５ａの内面の開口端の近傍部分には、嵌合孔２１に嵌入可能な断面略直角三角形状の突起部２２が形成されている。この突起部２２の係止溝１５の底部側の辺は、内側壁部１５ａの内面に対して略直角を成す方向に延出している。また、縁材２０の外側係止片２０ｂは、基端側の外側面のみが張材１３に接合され、その基端部分よりも先端側が張材１３から離反する方向に変位可能な係止突起２３とされている。

【００２５】

また、縁材２０の挿入片２０ａと外側係止片２０ｂの基端の内側コーナ部分は、係止溝１５の外側壁部１５ｂの突出端（係止溝１５の外側寄りの端縁）に回動可能に当接する第１の当接部２４とされている。なお、外側壁部１５ｂの突出端は、縁材２０の内側コーナ部分を回動可能に支持するために断面円弧状であることが望ましい。また、縁材２０の挿入片２０ａの先端部は、縁材２０が張材１３の張力を受けて第１の当接部２４を支点として回動したときに、係止溝１５の内側壁部１５ａの内面に当接する第２の当接部２５とされている。

【００２６】

ここで、張材１３の周縁部１３ａに取り付けられた各縁材２０は、張材１３の周縁部１３ａを背板１１の裏面側に折り返して内側に引き込んだ状態において、挿入片２０ａが係止溝１５内に挿入されて係止される。

係止溝１５内の縁材２０の挿入される箇所は、図３，図４に示すように、係止溝１５の左右の側辺部のうちの、補強リブ１７に隣接する各箇所と、係止溝１５の上辺部及び下辺部の延出方向に離間した３箇所と、四隅の各角部に対応する箇所とされている。背板１１の各補強リブ１７の端面（背板１１の裏面方向の面）上には、縁材２０の係止突起２３と嵌合可能な係止凹部２６が形成されている。図５に示すように、係止凹部２６は、補強リブ１７の端面のうちの係止溝１５の外側壁部１５ｂとの連接位置から、背板１１の外周端部方向に向かって略三角形状に窪んで形成されている。

【００２７】

係止溝１５の左右の側辺部に係止される縁材２０は、図５中の仮想線で示すように、挿入片２０ａが係止溝１５内に挿入された後に、張材１３から張力を受けて第１の当接部２４を支点として回動する。これにより、挿入片２０ａの嵌合孔２１が係止溝１５内の突起部２２に嵌合されるとともに、外側係止片２０ｂが補強リブ１７上の係止凹部２６に嵌合される。この結果、各縁材２０は係止溝１５からの抜けを規制されるとともに、背凭れ幅方向の位置ずれを規制される。

一方、係止溝１５の上辺部及び下辺部と、四隅の角部に係止される縁材２０は、挿入片２０ａが係止溝１５内に挿入された後に、張材１３からの張力を受けて第１の当接部２４を支点として回動することにより、挿入片２０ａの嵌合孔２１が係止溝１５内の突起部２２に嵌合される。この結果、各縁材２０は係止溝１５からの抜けを規制される。

【００２８】

また、図５に示すように、背板１１の外周縁部には裏面側に向かって膨出する外縁膨出部２７が一体に形成されている。背板１１の外周縁部は、前面から裏面側の外縁膨出部２７にかかる部分が連続した湾曲面をなすように形成されている。なお、張材支持部である係止溝１５の開口側の端縁は外縁膨出部２７よりも背板１１の裏面側に大きく突出してい

る。また、背板１１の左右の側辺部の裏面に形成された前述の補強リブ１７は、その裏面側の端面が、係止溝１５の外側壁部１５ｂの突出端と外縁膨出部２７の裏面側の頂部とを直線状に接続するように突出高さが変化している。

【００２９】

図６は、背板１１の外周縁部の断面を拡大して示す図であり、図７は、背板１１の前面側の外周縁部を示す斜視図である。

これらの図に示すように、背板１１の外周縁部には、張材１３の裏側のクッション材１２を係止する微小な（１ｍｍ程度の）凸部２８が複数形成されている。この実施形態の場合、凸部２８は、先端部が若干丸みを帯びた略円錐状に形成され、背板１１の面方向と略直交する方向に突出している。凸部２８は、具体的には、背板１１の外周縁部の前面側領域と外縁膨出部２７の背板背面側に向く領域とに、張材１３の巻き込み方向に沿って複数列千鳥状に形成されている。なお、この実施形態の場合、凸部２８は、背板１１の型成形を容易にする観点から、背板１１の外周縁部のうちの前面から裏面側に向かう湾曲部分の頂部付近には形成されていないが、凸部２８はこの頂部付近にも形成するようにしても良い。

【００３０】

ところで、この実施形態では、クッション材１２の外形は背板１１の外形よりも大きく形成され、張材１３の外形とほぼ同寸法に形成されている。ただし、張材１３の裏面に接合されるクッション材１２は全域で均一厚みでなく、張材１３の周縁部１３ａの端末付近に接合される領域だけは前述のように薄肉に形成されている。背板１１の外周縁部に形成された凸部２８は、張材１３が背板１１の前面側に被着され、その周縁部１３ａが背板１１の裏面側に引き込まれて背板１１の裏面に係止されたときに、張材１３によって押し潰されたクッション材１２の厚肉部分に喰い込み、クッション材１２の裏面を係止する。

【００３１】

実際に、張材１３をクッション材１２とともに背板１１に取り付ける場合には、張材１３をクッション材１２とも背板１１の前面側に被せ、その状態で張材１３とクッション材１２の周縁部を背板１１の外周縁部の裏側に折り返し、張材１３の周縁部１３ａの端末を内側に引き込んで各縁材２０を係止溝１５の対応個所に係止固定する。こうして、張材１３の周縁部１３ａが内側に引き込まれて背板１１の裏面に係止されると、張材１３が背板１１の外周縁部に押し付けられて、クッション材１２の対応個所を押し潰す。このとき、背板１１の外周縁部の複数の凸部２８は、クッション材１２に喰い込んで、クッション材１２の滑りを規制する。

【００３２】

以上のように、この実施形態に係る椅子１は、背板１１の外周縁部に、背板１１の面方向と交差する方向に突出してクッション材１２の裏面を係止する凸部２８が設けられているため、背板１１の外周縁部でのクッション材１２の引き込み方向に沿う方向の滑りを凸部２８によって規制し、クッション材１２の僅かな滑りを契機とした張材１３の位置ずれを未然に防止することができる。

【００３３】

特に、この実施形態の椅子１においては、背板１１の外周縁部に、張材１３の引き込み方向に沿って凸部２８が複数設けられているため、背板１１の裏面側から引き込み力を受ける張材１３の位置ずれをより有利に抑制することができる。

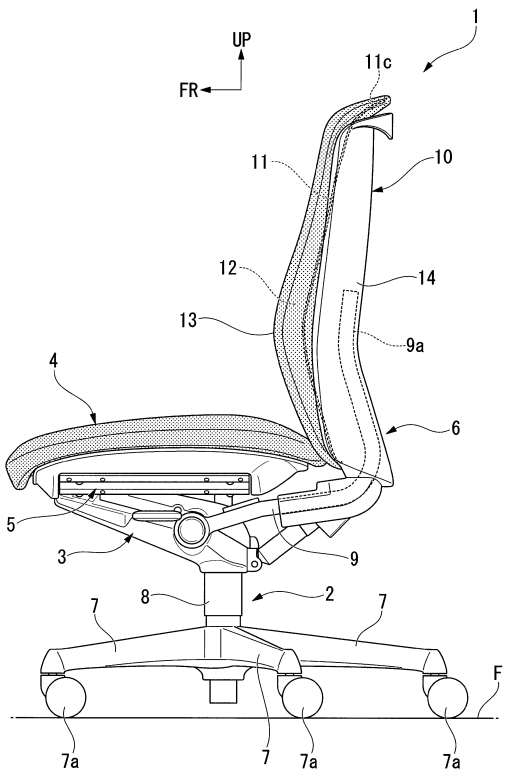
【００３４】

さらに、この実施形態の椅子１は、クッション材１２が背板１１よりも大きな外形寸法に形成され、その外周縁部が背板１１の外周縁部を巻き込んで裏側に折り返されるとともに、背板１１の外周縁部の表面側から裏面側に回り込む範囲に複数の凸部２８が設けられているため、クッション材１２の回り込み方向に沿った滑りを広い範囲で有利に規制することができる。また、背板１１の外周縁部の前面側から裏面側にかかる範囲でクッション材１２が張材１３に内側から支持反力を付与することになるため、張材１３の位置ずれをより強力に規制することができる。

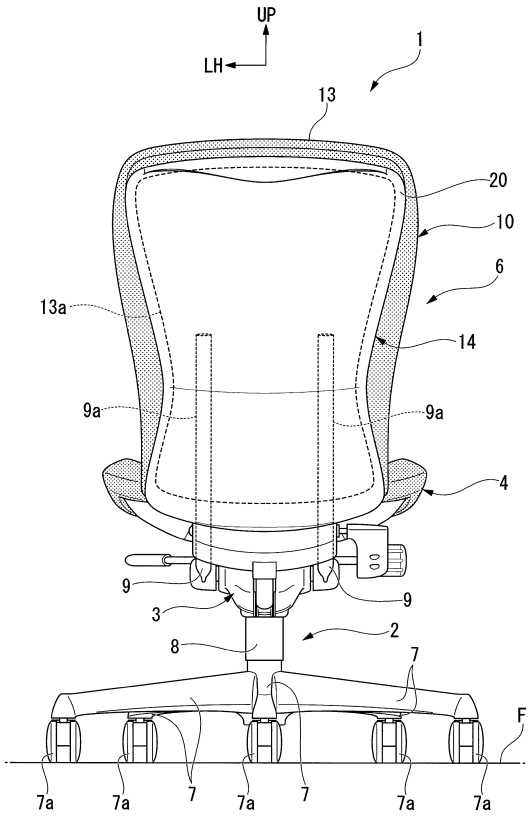
【００３５】
　また、この実施形態の椅子１の場合、背板１１の外周縁部に、裏面側に向かって膨出する外縁膨出部２７が設けられ、その外縁膨出部２７に凸部２８が設けられるとともに、背板１１の裏面側における外縁膨出部２７よりも内側領域に張材１３の周縁部の端末を係止する係止溝１５が設けられているため、クッション材１２が背板１１の外周縁部の表面から裏面側の外縁膨出部２７にかかる広い範囲を大きく包み込み、その状態で外縁膨出部２７の凸部２８によってクッション材１２の滑りを効率良く規制することができる。そして、この椅子１の場合、外縁膨出部２７の内側の係止溝１５部分で張材１３の端末部を内側に引き込む構造とされているため、背板１１の外周縁部を包み込むクッション材１２を背板１１の外側端面に強く付けることができる。このため、クッション材１２や張材１３の引き込み方向に沿う方向の位置ずれをより確実に規制することができる。
【００３６】
　特に、この実施形態においては、張材支持部である係止溝１５の突出端が外縁膨出部２７よりも背板１１の裏面側に大きく突出しているため、張材１３の周縁部が外縁膨出部２７の裏側（径方向内側の裏面側）に押し込まれることがなく、クッション材１２も外縁膨出部２７で強く折り込まれることがなくなる。したがって、クッション材１２が外縁膨出部２７で強く押し潰されて、背板１１の裏側に折り返された張材１３に外縁膨出部２７から離間する方向の大きな反力が作用するのを抑制され、張材１３が背板１１の外周縁部の前面側に強く押し付けられることになる。このため、背板１１の前面側での張材１３の張力を充分に高く維持することができるとともに、張材１３の位置ずれもより確実に防止することができる。
【００３７】
　なお、この発明は上記の実施形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々の設計変更が可能である。例えば、上記の実施形態においては、背板１１の外周縁部の前面側領域と外縁膨出部２７の背板背面側に向く領域とに略円筒状の凸部２８が形成されているが、図８に示す実施形態のように、背板１１の外周縁部の前面側領域と外縁膨出部２７の背板背面側とに形成する各凸部２８Ａを、背凭れ幅方向外側に向く面が成形時の型抜き方向（図中上下方向）に沿うような略三角形状に形成するようにしても良い。この実施形態の場合、背板１１の前面中央側から張材１３が荷重を受けて引っ張られたときに、凸部２８Ａの先端部がクッション材１２に引っ掛かり易くなり、特に、外縁膨出部２７の背板背面側に突設される凸部２８Ａが上記のように形成されると、外縁膨出部２７の外表面に対して凸部２８Ａの先端がクッション材１２のずれを規制する方向に傾斜することになるために、凸部２８Ａの先端部がクッション材１２により引っ掛かり易くなる。したがって、クッション材１２や張材１３の引き込み方向に沿う方向の位置ずれを規制する上でより有利となる。また、背板１１の外周縁部のうちの前面から裏面側に向かう湾曲部分の頂部付近には、型割り位置であれば凸部を形成することも可能である。
【００３８】
　また、上記の実施形態においては、背板１１の外周縁部に設ける凸部２８が略円錐形状のものであるが、図９に示す実施形態のように、背板１１の外周方向に略沿って延出する突条１２８によって凸部を構成するようにしても良い。
　また、上記の実施形態は、背凭れ部の背凭れ本体が荷重支持体である実施形態であるが、荷重支持体は座体であっても良い。
【符号の説明】
【００３９】
　１０　背凭れ本体（荷重支持体）
　１１　背板（基板，基体）
　１２　クッション材
　１３　張材
　１３ａ　周縁部
　１５　係止溝（張材支持部）

２７　外縁膨出部
２８　凸部
１２８　突条（凸部）

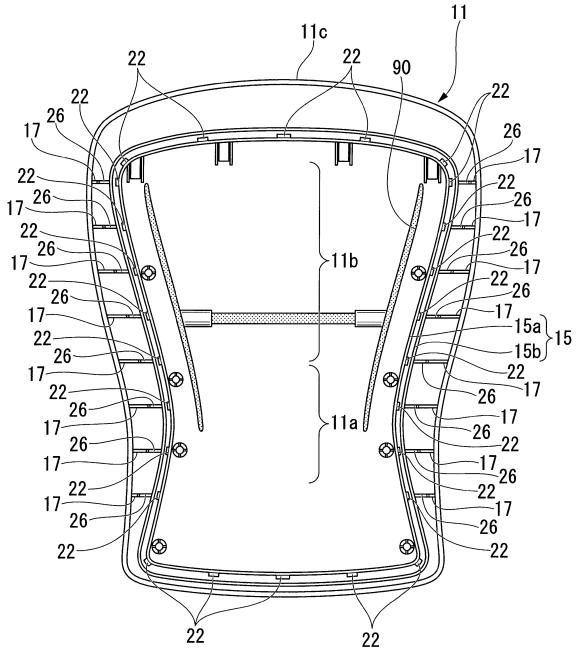
【図１】



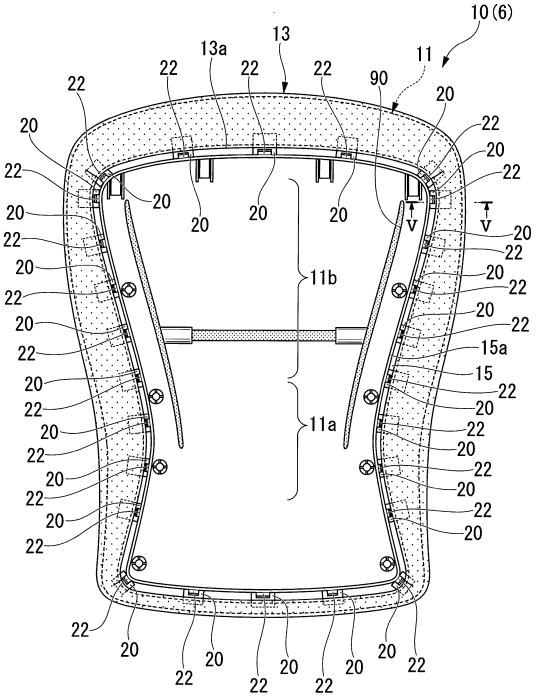
【図２】



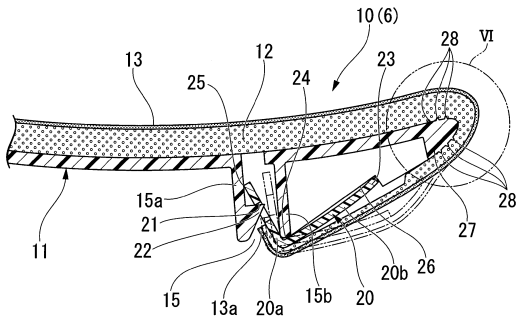
【図３】



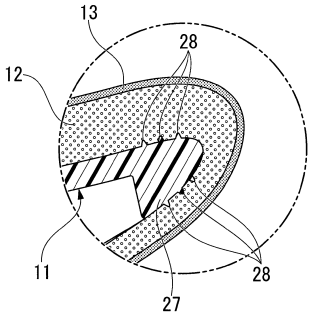
【図４】



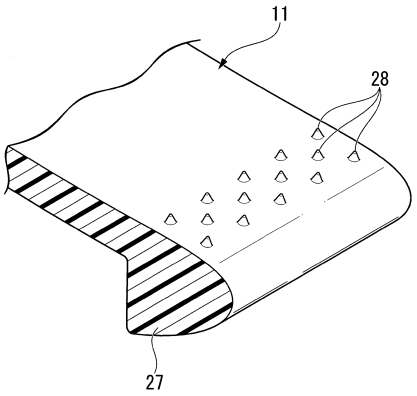
【図５】



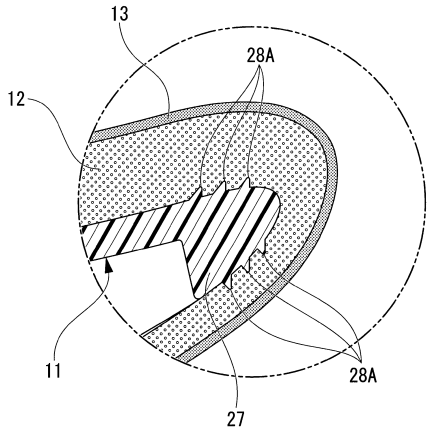
【図６】



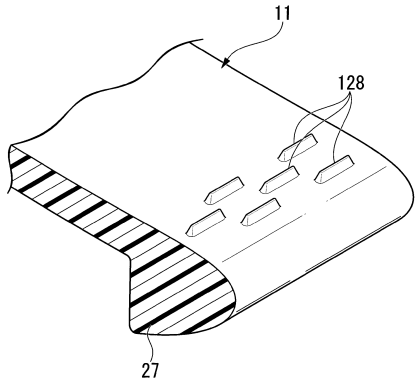
【図７】



【図８】



【図９】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開昭６２－２０４７１１（ＪＰ，Ａ）
特許第４９６４５０１（ＪＰ，Ｂ２）
特開平８－３８３０２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｃ　３１／０２
Ａ４７Ｃ　７／００－７／３２
Ｂ６８Ｇ　７／０５